

2022 年 8 月ハイパーカレンダーレポート

最高気温 37° よりもっと高いと感じる茹だるような暑さの中、私たちは APU 立命館アジア太平洋大学の構内にいた。大分県教育庁高校教育課の委託事業「観光ツアー企画・立案学習」のためだ。これは、県立学校で商業の科目を学ぶ高校生が、別府で、留学生とともにフィールドワーク等を行い、インバウンド向けの新たな観光ツアーや大分ならではの土産等を企画し提案するといった、今年度初めて実施する事業である。県内、6 か所の高校から自主的に参加を希望した高校生 24 名が集まった。

初日の 8 月 3 日はオリエンテーションを行ったのち、大分県内の観光業界の 3 者（株式会社 JTB 大分支店の占部氏、企業組合別府おもてなし会議の宮崎代表、合資会社海坊主の千壽氏）からインプットセミナーとして講演をいただいた。大分を代表する観光資源、観光地の立ち位置や経営、2019 年全国を沸かせたラグビーワールドカップの別府での集客等、それらの話は多岐にわたり、高校生たちはメモを取りながら真剣に耳を傾けていた。午後は、今回の目玉である「別府市内のフィールドワーク」へ。各グループが、鉄輪散策コース・地獄めぐりコース・別府駅周辺散策コースに分かれ、留学生やメンターとともに観光地を実際に自分の足で回ること、「自分以外の人はどう感じるのか?」、「実感」と「共感」をグループメンバー同士が学び合う時間となった。

翌日の 8 月 4 日は、観光ツアーを企画するためのアイデアソンを実施した。手法としては、ユーザー視点に立って本質的な課題やニーズを発見する思考法のデザインシンキングを利用した。学校、年齢、性別、人種まで異なる人々で行ったディスカッションを通して、高校生たちは多くの気づきを得ていたようだ。

その後、約 1 か月の期間は、審査会に向けてオンラインで活動を継続し、9 月 3 日の提案審査会を迎えた。その名も「大分愛！別府愛！ぶつけろ！湧く湧くインバウンドツアー企画」である。この名称や入賞者に渡す副賞は、参加の高校生たちにアンケートを取り決定した。名実共に「高校生が自分たちで作るあげる」審査会となった。どのグループも工夫に満ち溢れ、堂々とした発表であり、1 グループあたり 8 分間の発表時間があまりにもあっという間に過ぎていった。審査員である 6 名（株式会社 JTB 大分支店の占部氏、別府商工会議所の倉原氏、企業組合別府おもてなし会議の宮崎代表、弁護士兼ライターの原口氏、一般社団法人湯布院温泉旅館組合の日野氏、大分県教育庁高校教育課の山田氏）が、それぞれの立場からの講評をしていた時、聞いている高校生たちの真剣な表情を、私は忘れることはないだろう。

ハイパー研での 8 月は、10 日に原田主任研究員が大分県中小企業デジタル化促進説明会で、「おおい AI テクノロジーセンター」の取組みについて講演を行い、県内中小企業に広く同センターの活動を紹介した。また 29 日には、大分県 DX 推進課の委託事業「未来の先端技術活用人材発掘事業」で、大分県立由布高校にて e スポーツに関連する 2 者（株式会社トリアナの川野氏、元大分県 e スポーツ連盟の竹田氏）の講演と、生徒によるミニアイデアソンを実施。参加した生徒からは「将来は IT 関連の仕事も視野に入れたい」と大変嬉しい言葉が出て来て、大好評の授業となった。

(文責：矢野 歩実)